

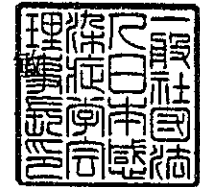
平成 25 年 10 月 11 日

厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会
基本方針部会 部会長
岡部信彦 殿

一般社団法人日本呼吸器学会 理事長 西村正



一般社団法人日本感染症学会 理事長 岩田



要望書

成人用肺炎球菌ワクチンの導入の仕方に関する要望

平成 25 年 7 月 10 日に開催されましたワクチン分科会基本方針部会において、高齢者における成人用肺炎球菌ワクチンの定期接種化について、1) 65 歳以上の者を対象とすること、2) 接種体制として定期接種化から 5 年間は 70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳の者に接種する（5 歳年齢ごとにキャッチアップを実施する）案が提案され、承認されました。

日本呼吸器学会、日本感染症学会としては、基本方針部会における 65 歳以上の者を対象とした成人用肺炎球菌ワクチンの定期接種化の方針提示に全面的に同意する次第です。しかしながら、成人用肺炎球菌ワクチンの導入の仕方につきましては、上記の案では高年齢層が最大 5 年間、定期接種の順番年を待つことになるが、高年齢層においては、より肺炎に罹患し重症化するリスクが高まることを踏まえると、高年齢層に優先的に接種を行うことが望ましいと考えます。また、わが国において成人用肺炎球菌ワクチンとインフルエンザワクチンとの併用接種により、75 歳以上の高齢者の肺炎による入院頻度が減少し¹⁾、また高齢者介護施設入居者における肺炎球菌による肺炎罹患や肺炎による死亡が減少することが報告されております²⁾。さらに、これらのエビデンスから高齢者層における成人用肺炎球菌ワクチンの医療経済効果も明らかとなっております³⁾。

このような理由から、日本呼吸器学会、日本感染症学会としては高年齢層からキャッチアップを開始し、キャッチアップ終了次第 65 歳の定期接種に移行する案を提案させていただきたいと存じます。

以上の経緯から、日本呼吸器学会、日本感染症学会は基本方針部会での成人用肺炎球菌ワクチンの導入の仕方についての再検討を要望する次第であります。

参考文献

1. Kawakami K, et al. Effectiveness of pneumococcal polysaccharide vaccine against pneumonia and cost analysis for the elderly who receive seasonal influenza vaccine in Japan. *Vaccine* 2010;28:7063-9.
2. Maruyama T, et al. Efficacy of 23-valent pneumococcal vaccine in preventing pneumonia and improving survival in nursing home residents: double blind, randomized and placebo controlled trial. *BMJ*, 2010;340:c1004.
3. 肺炎球菌ポリサッカライドワクチン（成人用）作業チーム報告書 予防接種部会 ワクチン評価に関する小委員会 肺炎球菌ワクチン作業チーム
平成 23 年 3 月 11 日